ゆめここ通信

2020年6月　第3号

地域支援センター
「ゆめここ」

第2号では、自立活動と合理的配慮の関連性について確認しました。今回は、自立活動の指導を行っていく際の視点について整理してみました。

自立活動の指導について①

自立活動の指導では、個別の指導計画をもとに、指導目標や指導内容を考えました。自立活動の指導が大切なことは分かっていますが、指導の仕方が明確ではなく、どのような視点で指導していくべきかが曖昧で分かりにくいです。

「自立活動の目標」を基に、以下のような視点で考えると、どのように指導を行っていくべきかが分かりやすいです。参考にしてみてください。

３つの視点で指導していく

自立活動の目標は、「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な**知識、技能、態度、及び習慣を養い**、もって心身の調和的発達の基盤を培う。」と示されています。このことを踏まえると、次の３つの視点で自立活動の指導を行っていくことも考えられます。

生きて働く**知識・技能**の習得

学びを人生や社会に生かそうとする**態度**

未知の状況にも対応できる**習慣**

参考・引用資料：『次期学習指導要領へ向けて～中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ～
ー自立活動の指導を中心にー』
元文部科学省特別支援教育調査官　分藤賢之　氏

学習指導要領解説　自立活動編では

○　自立活動は、自立を目指した主体的な活動であり、まず、**児童生徒自ら環境に働き掛けられるような力をはぐくむこと**が大切である。
○　児童生徒が**指導目標を自覚し**、改善・克服するための方法等について、**自ら選んだり、ものごとを決定して実行したりすること**は、学びを深め、確実な習得を図ることにつながることになる。
○　自立活動を**学ぶことの意味に自ら気付き、目的意識をもって、主体的に学習に取り組めるようにしていくこと**は、～中略～将来の自立と社会参加を実現する又は果たす上で非常に重要である。

「特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（Ｐ１１１～１１８）」　より

児童生徒が学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な、①『知識・技能』の習得を図り、自分から取り組み、生かそうとする②『態度』や③『習慣』を養っていく、という３つの視点で自立活動の指導を展開していく方法も１つの考え方として活用していくことができます。
☆裏面☆では、３つの視点を踏まえた自立活動の指導の例を示しましたので、ご活用ください。

３つの視点を踏まえた自立活動の指導（具体例）

【具体例：日常生活の指導等】　合理的配慮から、自立活動の指導につなげるパターン

小学部２年２・３組の実践

時間の見通しをもつことや、活動の切り替えが困難な児童への指導

合理的配慮

タイムタイマーやキッチンタイマーなどを提示し、視覚や聴覚の情報から活動の時間の見通しをもつことができるようにする。

自立活動の指導

知識・技能

タイムタイマーのメモリがなくなったり、タイマーの音がなったりしたら活動を終えることを理解し、活動を切り替えることができるように働きかけていく。

態度

タイムタイマー等のメモリや音を手掛かりにすることで、活動の時間に見通しをもつことができることに気づき、さらに自分からタイマー等を活用していく意欲を高めていくことができるようにする。

習慣

他の生活場面や学習場面で、タイムタイマー等（時計も含む）を活用して、活動の時間に見通しをもつことを習慣化できるようにしていく。
（今後の方向性）

【具体例２：生活単元学習】
具体的な状況を想定して自立活動の指導を行うパターン

友達とのやりとりでトラブルを起こすなど、他者とのかかわり方が困難な児童生徒への指導

自立活動の指導

知識・技能

『こんなときどうする？』など教師や友達と一緒に考える場面を設定し、自分が友達とトラブルになる原因や、友達とのよりよい関わり方に気付き、他者との適切なかかわり方について理解を深めることができるようにする。

態度

友達との適切なかかわり方について、学んだことを授業の中で演じてみたり、実際の友達とのやりとりの場面で取り入れたりすることができるように働きかけていく。

習慣

友達とのやりとりで、うまくいった方法を取り入れたり、失敗した原因をもとに適切な方法を自分から選択したりするなど、習慣化していくことができるように働きかけていく。

自立活動の指導においては、「合理的配慮」から、自分に合ったよりよい方法があることに気付き、その方法を活用して習慣化していく指導のあり方や、児童生徒が指導目標を自覚し、改善・克服するための方法等について学びを深め、確実な習得につなげていく指導のあり方などが考えられます。児童生徒の学習状況や経験等を踏まえ、適切な指導のあり方を考えていくことが大切になってきます。